

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26330373

研究課題名(和文)電子書籍形式を用いた写真アーカイブズの「リサーチプロファイル」形成に関する研究

研究課題名(英文)The Research for Proposing for Creation of "Research Profile" of Photo Archives Using Digital Book Format

研究代表者

研谷 紀夫(TOGIYA, Norio)

関西大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：00466830

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、今後増加すると想定される写真アーカイブをより客観的な観点から調査分析することが可能なデータを集約し「リサーチプロファイル」として継承していくモデルを示すことができた。また、これまではあまり焦点の当てられなかった写真の来歴情報や、目録化に際して参考とした証言者のインタビューや専門家の議論の過程、さらに被写体を計量分析した客観的なデータを体系的に集約してまとめ、学術利用に活用できる資料として公開できる点も明らかにした。またこれらのテキスト、映像、音声、静止画像などのメディアを電子書籍形式で集約し、1つのファイルで閲覧し、より持続的に保存できるフローとモデルを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research made clear the method to collect data that can be browsed and analyzed from a more objective viewpoint and open it to the public as a "Research Profile". In addition, this research indicated that data, such as provenance information, interviews with witnesses and discussions with experts, which became a reference at time of cataloging and until now was out of focus, can be systematically collected as objective data on quantitative analysis of the subject, and can be aggregated and published as material that can be utilized for scientific use. Furthermore, persistent management is possible by storing them in e-book format into e-book deposit systems, which are becoming popular these days.

研究分野：文化資源情報学、表象文化論

キーワード：リサーチプロファイル 資料情報基盤 写真アーカイブ デジタルヒューマニティーズ 写真研究 電子書籍 典拠情報 デジタルカルチュラルヘリテージ

1. 研究開始当初の背景

近年、様々なところで写真を対象としたデジタル/アナログのアーカイブ構築が行われており、幅広い期間と地域を対象とした写真が公開されつつある。しかし、元来写真資料は資料として扱う上で複数の課題がある。1点目の課題としては、図像資料であるので被写体に関する文字記述が少なく、人物や建築などの被写体や年代の特定を正確に行うことが難しい点である。多くの場合は写真の裏書や、写真の関係者の証言を基にするが、記述や証言が間違っている可能性も否定できない。また2点目としては継承された写真も撮影された全ての写真が残っていることは少なく、自然災害、戦争、形見分けや、整理による廃棄などが行われる可能性がある点である。特に写真は一枚一枚が独立した存在であり、順番やまとまりが崩れることが多い。またアルバムに貼られた写真も、後に剥がされて他の場所に移動されるケースも多く、散逸しやすい。そのためこれらの来歴や保存状態についての情報を把握しておく必要がある。

さらに3点目としては、写真資料の分析は特定の被写体の表出頻度などが計量化された上で分析されることは少なく、主観的な印象から対象の分析が行われることが多い。しかし、客観的な分析には、主な被写体の表出頻度など計量的なデータに基づいて分析されること望ましい。そのため、写真資料でも特定の被写体が出表する頻度などの基礎データを提供する必要がある。

このような観点から考えると写真アーカイブを用いて、過去の歴史、民俗・習俗、社会などを分析する場合は対象となる写真アーカイブの、資料の来歴、原秩序、整理の方法や経緯、情報化の方法や過程とその根拠、認識されている被写体の計量的な分析結果などを「プロフィール」としてまとめて、研究分析時に参照する必要がある。

よって本研究では、写真資料の、「来歴・原状の調査」、「情報化の過程の可視化と根拠となる情報の収集」、「被写体の客観的分析」の3点を「リサーチプロフィール」として一つに集約して公開する方法論を提案する。

2. 研究の目的

申請者が考案した写真アーカイブの「リサーチプロフィール」の構成は、「来歴・原状に関する資料(関係文書資料、旧蔵者のインタビュー映像、資料旧蔵空間の映像資料、資料の分散と継承状況を示したグラフなど)」、「資料の内容を目録化する上で根拠となった資料、関係者などのインタビュー映像、専門家による議論の記録(映像やオンラインディスカッションデータ)、被写体の人物情報、家系図、建造物情報などの資料」、「被

写体の中で名称などが認知できる被写体が出表する頻度、複数の被写体が出表する頻度」などの情報を集約して「リサーチプロフィール」を形成し、デジタル及びアナログアーカイブ内に残し公開する必要がある。

これらの情報内容は、証言映像・音声、画像、テキストなど多様な形式が想定されたが、その内容情報を検索可能にするように構成することが必要である。また、これらはお互いが連携できるように1つのパッケージ内で構成され、写真アーカイブ本体と並行しながら閲覧できる形式が望ましい。そして様々な端末で閲覧でき、永続的に継承できるフォーマットであることが推奨される。そのため、本研究では「リサーチプロフィール」を様々なメディアを格納できるEPUB形式の電子書籍フォーマットで格納し、タブレットなどを用いて閲覧することを可能とすることを目標とする。

3. 研究の方法

上述のような「リサーチプロフィール」の形成を実現する方法論を確立するために後述する三資料群を対象としたプロフィールを作成する実証研究を通して(1)「リサーチプロフィール」として格納すべき情報の項目、(2)プロフィールの取得する作業フロー、(3)プロフィールデータの取得分析方法、(4)プロフィールの構成方法やインターフェイス、(5)EPUB形式を中心とする電子書籍フォーマット形式を用いた資料の編集方法、の五点を明らかにした。その後、「リサーチプロフィール」を写真アーカイブの資料などとともに並行して閲覧する実証実験を行い、専門家を中心とした評価を受け、また実践を通して、メタデータタグへ記述方法などを明らかにした。

4. 研究成果

(1)「リサーチプロフィール」の形式

本研究では、前述したように、来歴、現秩序、整理の方法や経緯、情報化の方法や過程、被写体の計量的な分析結果などを「リサーチプロフィール」としてまとめた。最初にこれらの「リサーチプロフィール」をまとめていく電子書籍のフォーマットについて検討を実施した。電子書籍フォーマットには多数の形式があり、各形式間で、互換性が無いケースも存在する。また、互換性がある場合も実際に読み込んだ場合は、表示などが変化する場合も多い。よって、「リサーチプロフィール」を制作する場合は、なるべく標準的なフォーマットを用いるとともに、レイアウトなどについてはよりシンプルで単純な構成で編集することが推奨される。

その場合、複雑なレイアウトを組まないことなどが必要である。現状においては、複数

の規格の中で、EPUB 形式がより国際標準的な規格として認知が広がっている。しかし、同形式においても EPUB2 と EPUB3 では一部の様式が異なるなど、現状においては、その様式は安定していない。よって、今後様式上でどのような変化が起きても対応できるような、単純な構成と標準的な文字コード、画像形式を採用することが必要である。

電子書籍のメタデータにおいては、「リサーチプロファイル」内にあるコンテンツの主

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<package version="2.0" unique-identifier="bookId" xmlns="http://www.idpf.org/2007/opf">
  <meta id="xhtml:xmlns" xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" content="http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1.1.dtd" />
  <dc:language>jp</dc:language>
  <dc:title>西園寺公望・小泉策太郎関係写真資料</dc:title>
  <dc:creator>西園寺公望・小泉策太郎</dc:creator>
  <dc:rights>西園寺公望・小泉策太郎</dc:rights>
  <dc:identifier>urn:isbn:486867-2030-4281-9&id=urn:isbn:486867-2030-4281-9</dc:identifier>
  </meta>
  <item id="ncx" href="toc.ncx" media-type="application/x-dtbncx+xml" />
  <item id="Section001.xhtml" href="Text/Section001.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  <item id="Section002.xhtml" href="Text/Section002.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  <item id="Section003.xhtml" href="Text/Section003.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  <item id="Section004.xhtml" href="Text/Section004.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  <item id="Section005.xhtml" href="Text/Section005.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  <item id="Section006.xhtml" href="Text/Section006.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  <item id="Section007.xhtml" href="Text/Section007.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  <item id="Section008.xhtml" href="Text/Section008.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  <item id="Section009.xhtml" href="Text/Section009.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
  </item>
```

図 1：電子書籍内のメタデータの記述

要な要素について情報がメタデータに記載され、検索に役立てられることが必要である。そのため、電子書籍がデータベースに格納された後に、電子書籍検索システムとどのように連携をしていくかを検討する必要があるだろう。これらについては、今後検討されるべき課題であるが、現時点においては、基本的な検索に対応できるようなメタデータの記述を行った。

```
1 <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2 <!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.1//EN"
3 "http://www.w3.org/TR/xhtml11/DTD/xhtml11.dtd">
4
5 <html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml">
6 <head>
7 <title>Index</title>
8 <link href="Styles/sgo-index.css" rel="stylesheet" type="text/css">
9 </head>
10 <body>
11 <h2 class="sgo-index-title">Index</h2>
12 <div class="sgo-index-body"><div class="sgo-index-new-letter">乾</div>
13 <div class="sgo-index-entry">乾板
14 <a href="Text/Section0016.xhtml#sigil_index_id_1">1</a>, <a href="Text/Section0016.x
15 href="Text/Section0025.xhtml#sigil_index_id_1">4</a>, <a href="Text/Section0025.x
16 href="Text/Section0027.xhtml#sigil_index_id_2">7</a>, <a href="Text/Section0027.x
17 href="Text/Section0030.xhtml#sigil_index_id_3">8</a>, <a href="Text/Section0030.x
18 href="Text/Section0030.xhtml#sigil_index_id_5">10</a>, <a href="Text/Section0030.x
19 href="Text/Section0036.xhtml#sigil_index_id_6">11</a>, <a href="Text/Section0036.
20 href="Text/Section0036.xhtml#sigil_index_id_1">13</a></div>
21 <div class="sgo-index-new-letter">小泉策太郎
22 <a href="Text/Section0001.xhtml#sigil_index_id_2">1</a>, <a href="Text/Section0001.x
23 href="Text/Section0001.xhtml#sigil_index_id_4">2</a>, <a href="Text/Section0001.x
24 href="Text/Section0001.xhtml#sigil_index_id_9">5</a>, <a href="Text/Section0001.x
25 href="Text/Section0002.xhtml#sigil_index_id_2">7</a>, <a href="Text/Section0002.x
26 href="Text/Section0003.xhtml#sigil_index_id_2">8</a>, <a href="Text/Section0005.x
27 href="Text/Section0030.xhtml#sigil_index_id_2">10</a></div>
28 <div class="sgo-index-new-letter">西園寺公望
29 </div>
```

図 2：電子書籍内の索引情報

電子書籍全体のメタデータのファイルは XML のフォーマットを用いて、OPF (Open Packaging Format)形式で保存される。そのため、EPUB 形式では Dublin Core のタグの中の、Description と Subject の活用方法などについて検討し、検索に活用すること考慮する必要がある。また、その他のシソーラスや自由なタグ付けなどによる用語の付与なども、どのような基準で行うかについても検討する必要がある。これらのメタデータは EPUB ファイルを編集できるアプリケーションなどから GUI を用いて編集することが可能であるが、テキストエディタなどを用いて、手動でも編集することが可能である。OPF 形式のデータも、基本的に XML 形式で記述されたおり、同頁の<meta>タグ内に

Dublin Core 形式の項目を記入した。

また、電子書籍の一部には、索引情報も付与した。図 2 と図 4 にあるように、各頁に記入された情報の中で、重要なキーワードについては索引からリンクをたどって該当頁に移動できるように構成した。このことによって、写真に関する技術用語や専門用語、固有名詞などを統制し、各記述になるべくぶれがないように情報を記述した。これらのフォーマットを用いて各「リサーチプロファイル」をどのように構成したかを次項より解説する。

(2) . 西園寺公望小泉策太郎関係写真資料

本項から各資料別に作成したリサーチプロファイルについて解説する。本項で解説する対象は「西園寺公望・小泉策太郎関係写真資料」である。これは明治から昭和初期にかけて、実業家、著述家、政治家と活動し政友会を中心とした政党内部に人脈を広げ、内閣改造や政党の人事などに影響を及ぼした人物が昭和初期に所有していたと推定される写真原板である。

小泉は昭和初期に政界を引退した後は長年の構想であった西園寺公望の自伝や随想録などをまとめているため、それらに必要な写真資料と考えられ、晩年の西園寺公望に關係する写真資料が多く含まれている。

筆者がこれらの資料を入手した時点では、四つの箱に分かれており、箱の中には、様々な写真資料が複雑に入り混じっている資料も多い。そのため、これらを中性紙の封筒に入れる場合は、ビデオ撮影を実施し、現状がわかるようにした。

映像では、図 4 にあるように、4 点の箱の全体を撮影した後に、各箱についての解説と、それらの資料を中性紙の封筒に入れていく作業の様子を撮影した。撮影に際しては口頭での解説を入れ、資料の現状の様子や整理の方法などを解説した。特に、資料の一部は乾板、フィルムなどが多数混在している状況の箱も存在していた。これらは箱の上部は様々な資料が混在しているものの、中間層では何らかの種別や大きさにあわせて資料が整理されており、さらに下層になると資料が混在するという状況である。これらについて ID を付与し中性紙の封筒に封入してしまうと、オリジナルの位置や資料のまとめ具合といった情報が焼失したまま、目録に掲載されることになる。

事後の調査について、これらの写真資料のまとめが何らかの意味をもっていた場合、整理後はその状態がわからなくなってしまうため、何らかの記録が必要である。本プロジェクトでは、これらをビデオ映像に収録し、現状の状態が事後分かるように映像で記録した。

また、後述する専門家に実物検証においてはフィルムを包んでいる半透明の封筒が酸

性を含んでいるため、別の容器に入れ替える可能性がある。そのため、元々どのような包材によってフィルムや乾板が保存されているかについても記録する映像を残した。

資料については、調査がとられ、全てが目録化されるが、文字情報では伝わりにくい形態や物質に関する具体的な情報を残すこととした。



図3：専門家による調査と映像撮影

また資料整理後は、専門家による資料の検証と、それらに関するコメントを得ることとした。

検証のポイントは、「全体の概況（乾板とフィルムの混在状況について）」「資料を収納する当時の容器に関する情報」「フィルムの特徴」「資料の保存状態」「今後の保存に関する注意事項と課題1（温湿度管理）」「今後の保存に関する注意事項と課題2（収容容器・その他）」「特筆すべき資料」「資料の情報化に関する注意点」「まとめのコメント」の9点に分けて、コメントを得ることとした。

さらに、「特筆すべき資料」については、一部のネガに見られた青いフィルムのフィルムを解説する様子である。これは現状においてはどのような目的で、どのような過程で着色されたものであるのかは不明であるが、対象資料についても、複数点含まれており、これらについての解説がなされた。

また、本資料群は主に乾板やフィルムなどの原板ネガを中心とした資料となっているため、ポジ画像にする必要がある。現在では、乾板の紙焼きなどの実施を行う機会が減少

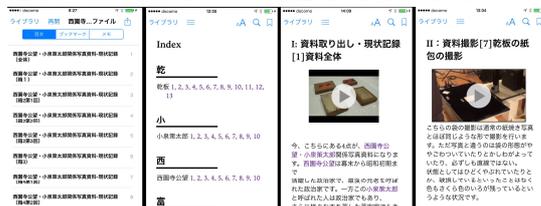


図4：電子書籍に格納された調査内容

しており、デジタル化の実施が中心となっている。

これらの写真、映像、証言をテキスト化したものを電子書籍フォーマットにまとめ、図4に示すように目次と索引を付与して構成し

た。

(3) . 丸木利陽関係資料

次に丸木利陽関係資料について解説する。当該資料は明治期に写真師とした活躍した丸木利陽に関する、履歴や写真原板、紙焼き写真に関する資料である。これらの資料についての来歴や現状記録、被写体や技術に関する情報、さらに門弟子の子孫宅などにおける証言資料などをリサーチプロファイルに構成することとした。

本資料群の資料は「顧客」「館員・門弟」などに伝わった複数の資料群が構成されており、来歴は複数存在する。特に「館員・門弟」の子孫宅に貴重な資料が保存されている。例えば、弟子が丸木の死後にまとめた丸木利陽に関する履歴や、実際に撮影された写真資料、弟子たちの同窓会の名簿や、同窓会の様子を写した写真資料などである。そのため、筆者は全国にある丸木利陽と関係する複数の写真館調査を実施し、その写真館の概要や内部の写真、インタビューでの証言などをプロファイルとしてまとめた。

また、「顧客」の側に残されていた資料としては、「北白川宮家旧蔵写真原板資料」について現状記録と、原板に関する技術情報の解説を、映像などを用いて記録した。まずについては、原板は中性紙のタトウに包んだ上で、中性紙の箱の中で縦置きで保存することとした。しかし、そうした中性紙の箱に入れると元の保存状態の様子が不明になってしまうため、写真が収められていた箱の現状記録を取得し、中性紙の箱に収納する様子を映像で記録した。



図5：電子書籍化された写真館調査の概要

またの被写体および技術情報の側面からは、この北白川宮妃を写した原板の表面には乳剤の他、炭での修正し、さらに油と考えられる液体が塗布されている痕跡がある。これらの油がどのような目的で塗布されたものであるかについては検証が必要であるが、この概況については「西園寺公望小泉策太郎関係資料」と同様に、専門家に実物を確認しながら調査を依頼し、その調査の様子とコメントを映像に収録した。原板に関する調査報告は日本写真保存センターなどから多数公開されているが、同乾板についての検証と解説については映像を用いて、原板の状況がよくわかるように解説した。

そして、これらの情報を電子書籍のコンテ

ンツとして1つにまとめた。同プロフィールでは、「館員・門弟」であった、写真館の調査情報に関するコンテンツと(図5)、「顧客」の側にあった北白川宮家旧蔵写真原板資料の現状記録および取り上げ作業、原板に関する調査映像、原板のデジタル撮影映像(図6)を中心に構成された。「館員・門弟」の資料については多くの写真資料を、「顧客」が継承した原板資料についての調査は音声入りの映像とテキストによって構成されている。



図6：電子書籍に格納された調査映像

(4) . 岩倉家写真資料

次の岩倉家写真資料に関する「リサーチプロフィール」については幕末から明治期にかけて活躍した岩倉具視とその子孫に関する写真の調査を実施したが、その調査内容を「リサーチプロフィール」として集約した。

本資料群の調査に際しては、資料のデジタル化後に調査用図録を作成した上で、それを用いて所蔵者への聞き取り調査を実施し、撮影者や被写体の確認などを実施した。写真調査は数度に渡って行われたが、一度に全ての写真資料の確認を行うことはできず、所蔵先も数か所に分かれているため、複数回に分けて調査が行われた。これらの岩倉家写真資料に関する「リサーチプロフィール」は、過去に実施されてきた調査概況に関する情報が掲載された。

本プロフィールには写真アーカイブの集合写真などに出現する被写体の相互関係を分析したデータを掲載した。ここでは、写真資料に含まれる集合写真において、同じ写真に写る頻度が高い人物同志は、より密接な関係を持つという仮説を前提に、同じ写真に写る人物相互の頻度を算出した値と、値を基に描いたネットワーク関係図およびその解説を掲載した。

5 . まとめ

本研究の特色は、今後も増加することが想定される写真アーカイブをより客観的な観点から調査分析することが可能なデータを集約し「リサーチプロフィール」として編集する点にあてた。また、これまではあまり焦点の当てられなかった写真の来歴情報や、目録化に際して参考とした証言者への聞き取

り調査や、被写体を計量分析した客観的なデータを体系的に集約してまとめ、学術利用に活用できる資料として参照できる点にも特色がある。そして、これらのテキスト、映像、音声、静止画像などのメディアを電子書籍形式で集約し、1つのファイルで閲覧できる他、スマートフォンやタブレットなどを用いることで、現物資料や紙の書籍形式の写真資料と並行して閲覧可能である点に特色があった。さらに、電子書籍フォーマットに格納することによって、現在世界で進行しつつある電子書籍納本制度への対応を想定している点も特徴があった。

これらの調査とリサーチプロフィールを活用し、代表者は著書『皇族元勳と明治人のアルバム-丸木利陽とその作品-』を公刊するとともに、福井県立歴史博物館の展示企画「カメラが撮らえた皇族と明治の偉人たち-福井が生んだ御用写真師 丸木利陽-」開催に関する助言に生かした。また丸木利陽だけではなくその他の写真資料の研究にもこれらのプロフィールを活用していく予定である。

一方で、こうしたファイルを保存継承していく際の課題も複数存在する。これらの課題の中で最も重要な課題は電子書籍の保存継承方法である。また、電子書籍フォーマットへの対応や公開面においては、基本方針が未定である部分も多いため、より幅広い機関において保存されることが理想である。また、電子書籍フォーマットの標準化も大きな課題である。そして、本研究では「リサーチプロフィール」として電子書籍形式を用いたため、書籍全体および章ごとのメタデータも電子書籍としては一般的なDublin Coreによって構成された。これらのメタデータは写真資料調査の概要を示すには十分であるが、詳細を明記するには不十分であることも多い。

しかしその一方で、映像ファイルなどについては、圧縮技術の変化などにより、一般の環境において持続的に読み込み難しいフォーマットになる可能性もある。そのため、映像などについては、新しいバージョンに自動的にマイグレーションが可能な環境に保存していくことが必要であろう。そして、レイアウトなどについては本プロジェクトにおいては、当初より、複雑なレイアウトは行わず、様々な環境に適應できるような単純なレイアウトを用いている。こうしたことに留意することで、将来的にどのような環境でも文章や映像、音声を読み取れる形式にすることが必要であろう。このような、標準化と持続性に関する留意が必要である。さらに、「リサーチプロフィール」の仕様に関する情報のメタデータへの格納方法なども今後の課題である。

このように、本研究の目的である、標準的な電子書籍フォーマットを用いて構築した「リサーチプロフィール」は本論で述べたような形式で構築がなされた。本研究で構築し

た「リサーチプロファイル」の基礎には、紙の書籍の形式・形態を継承する電子書籍フォーマットを用いることによって、紙の書籍の特性と電子媒体の特性を併せ持つコンテンツが形成された。しかし、現状では、比較的紙の書籍で作成する報告書と同じ単位でコンテンツが形成されており、デジタルフォーマットにあわせた、章や節の構成、ならびにメタデータの付与といったことが課題である。さらに、本論で示した「リサーチプロファイル」を実際のアーカイブにおける写真資料利用と連携させるモデルを具体的に示していくことが今後の課題であろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

研谷 紀夫、営業写真師に関する資料調査と情報化に関する基本指針の提案—富重利平・小川一真・丸木利陽の三写真師の資料に対する相互比較を中心に—、アート・ドキュメンテーション学会、アート・ドキュメンテーション研究、査読有、NO.24、pp.15-30、2016

研谷 紀夫、電子書籍形式を用いた写真アーカイブの「リサーチプロファイル」の作成とその課題—岩倉家写真資料の事例を中心に—、アート・ドキュメンテーション学会、アート・ドキュメンテーション研究、査読有、NO.23、pp.1-15、2015

研谷紀夫、電子書籍形式を用いた「電子研究図誌」の可能性：写真研究における「リサーチプロファイル」、日本図書館研究会、図書館界、査読無、67巻3号、pp.182-188、2015

[学会発表](計7件)

研谷紀夫、電子書籍と映像を用いた写真原板に関するリサーチプロファイルの作成—西園寺公望・小泉策太郎関係写真資料を中心に—、アート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会、2016年11月3日、東京都写真美術館(東京)

研谷紀夫、表象文化研究と文化資源の情報基盤整備—明治期肖像写真研究を題材に—、国立歴史民俗博物館資料がつなぐ大学と博物館—「歴史循環アクセスモデル」の構築にむけて、2016年2月27日、フクラシア東京ステーション(東京)

Norio TOGIYA, Proposal for Creation of “Research Profile” of Photo Archives

Using Digital Book Format
Digital Humanities、2015年7月1日、ウエスタンシドニー大学、シドニー(オーストラリア)

研谷紀夫、ビューワーアプリケーションを用いた明治期肖像写真の図像分析とその課題—昭憲皇太后の「御真影」・「御尊影」と座像の肖像写真を題材として—、アート・ドキュメンテーション学会、2015年度年次大会予、2015年6月6日、東京都西洋美術館(東京)

研谷紀夫、写真アーカイブズの「リサーチプロファイル」構築に関する基礎的研究、日本図書館研究会、第56回研究大会予稿集、pp.83-85、日本図書館研究会、第56回研究大会、2015年2月21日、大手前大学(兵庫)

研谷紀夫、楽譜・音源資料の保存及び電子化動向とその課題—海外におけるクラシック音楽の資料を中心に—、人文科学とコンピュータ研究会報告、情報処理学会、CH104(3)、2014年10月18日、関西大学(大阪)

Norio TOGIYA、World War I and Japan as Seen in the News Photographic Magazine Rekishi Shashi、INTERNATIONAL ASSOCIATION FOR MEDIA AND COMMUNICATION RESEARCH 2014、ハイデラバード(インド)、2014年6月25日

[図書](計3件)

研谷紀夫(分担執筆)、日本図書館情報学会研究委員会編、勉誠出版、わかる! 図書館情報学シリーズ 第3巻 メタデータとウェブサービス、2016、pp93-107

研谷紀夫(編・著)、吉川弘文館、皇族元勳と明治人のアルバム—写真師丸木利陽とその作品—、2015、192頁

研谷紀夫(分担執筆)、石田英敬 吉見俊哉 マイク・フェザーストーン(編)、東京大学出版会、デジタル・スタディーズ 2 メディア表象、2015、pp67-84

6. 研究組織

(1)研究代表者

研谷 紀夫 (TOGIYA Norio)
関西大学 総合情報学部・准教授
研究者番号：00466830